

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成25年5月2日 (2013.5.2)

【公表番号】特表2012-524241(P2012-524241A)
 【公表日】平成24年10月11日 (2012.10.11)
 【年通号数】公開・登録公報2012-041
 【出願番号】特願2012-504999(P2012-504999)
 【国際特許分類】

G 0 1 T 1/10 (2006.01)

A 6 1 N 5/10 (2006.01)

A 6 1 B 6/10 (2006.01)

【F I】

G 0 1 T 1/10

A 6 1 N 5/10 Q

A 6 1 B 6/10 3 0 1

【手続補正書】

【提出日】平成25年3月15日 (2013.3.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

放射線治療を受ける患者の皮膚に接着する基材、および該基材によって支持され、放射線の照射を受けると酸化状態が変化する蛍燐光体を有することを特徴とする放射線線量測定パッチ。

【請求項 2】

前記基材が可撓性である請求項 1 に記載の放射線線量測定パッチ。

【請求項 3】

前記パッチが一つかそれ以上のロケータマーキングを有する請求項 1 または 2 に記載の放射線線量測定パッチ。

【請求項 4】

前記パッチがひとつかそれ以上のバーコードマーキングを有する請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の放射線線量測定パッチ。

【請求項 5】

放射線治療の照射放射線に反応して前記蛍燐光体の酸化状態が変化した、該治療の該照射放射線線量を記録する請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の放射線線量測定パッチ。

【請求項 6】

前記蛍燐光体が、前記治療の前記照射放射線線量の分布を記録する請求項 5 に記載の放射線線量測定パッチ。

【請求項 7】

放射線治療中患者の放射線被曝をモニタリングする方法であって、該患者の放射線照射側の所定位置において少なくとも一つの蛍燐光体パッチを該患者の皮膚に貼り付けることからなり、このさいに該蛍燐光体パッチとして、基材と、そしてこの基材によって支持され、放射線を照射すると酸化状態が変化する蛍燐光体とからなるパッチを使用し、そしてさらに該蛍燐光体の刺激および蛍燐光体反応の検出によって該蛍燐光体パッチの該蛍燐光体を参照することを含むことを特徴とする上記モニタリング方法。

【請求項 8】

前記少なくとも一つの蛍燐光体パッチが複数の蛍燐光体位置を含み、そして前記参照が前記複数の蛍燐光体位置を参照し、放射線被曝の分布を検出することを含む請求項7に記載の方法。

【請求項 9】

前記複数の蛍燐光体位置を離散的な蛍燐光体領域によって形成する請求項8に記載の方法。

【請求項 10】

前記複数の蛍燐光体位置が独立した一つの蛍燐光体領域内にある請求項8に記載の方法。

【請求項 11】

前記参照が前記複数の蛍燐光体位置の同時刺激、および前記複数の蛍燐光体位置の前記蛍燐光体反応のイメージの取り込みからなる請求項9または10に記載の方法。

【請求項 12】

前記参照が、可動の参照ヘッドによって前記複数の蛍燐光体領域を個別に参照することからなる請求項9または10に記載の方法。

【請求項 13】

前記可動の参照処理ヘッドが、蛍燐光体領域に対する前記参照ヘッドの目的位置を表示するインジケータを有する請求項12に記載の方法。

【請求項 14】

放射線治療において患者の放射線被曝を検出するさいに使用する放射線線量測定プローブであって、該プローブの一部に設けた放射線検出蛍燐光体、および該蛍燐光体を目的の位置に案内する手段を備えたプローブ本体を有することを特徴とする放射線線量測定プローブ。

【請求項 15】

放射線治療中患者の放射線被曝をモニタリングする方法であって、放射線線量測定プローブの一部に放射線検出蛍燐光体を形成した放射線線量測定プローブおよび該蛍燐光体を案内する手段を有するプローブ本体を準備し、前記患者の放射線治療位置に近接して前記蛍燐光体が設けられるように前記プローブを案内し、そして前記蛍燐光体の刺激および蛍燐光体反応の検出を行うことによって前記蛍燐光体を参照することからなることを特徴とする該モニタリング方法。